

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	地域産業活性化のための高度人材育成プログラム		
法人名	学校法人 国際総合学園		
学校名	国際トータルファッション専門学校		
代表者	理事長 渡辺 敏彦	担当者 連絡先	石崎 伸一 TEL 025-226-6601

1. 事業の概要

地方の地場製造業は、アジア諸国にコストパフォーマンス競争から厳しい環境を強いられている。今後勝ち残る為には、大量生産製品と差別化できる付加価値の高い製品を企画・開発し市場に提案する必要がある。現状、地場製造業にそのノウハウは薄く、マーケティングから企画・デザイン・ビジネス戦略と高感度な感性を持った人材を地域に根付かせるために、次世代の地場産業を担う高度人材育成プログラムの開発を地域産業との連携をもって行う。具体的には、ブランド(ファクトリーブランド)を設定し、コンセプトワークから販売促進までの一連を学生がプロの実証講座を受け運営し、企業側が検証・評価する。また新潟での発表会と東京でプロのバイヤーやアパレル関係者を招いての展示会を行い、地域企業に貢献できる人材育成の成果・検証として、評価をえた。

2. 事業の評価に対する項目

①目的・重点事項の達成状況

低迷する地場産業に自立性を求め提案型企業に移行する事が、地域産業の活性化に繋がる。学校側として地域産業に人材を輩出し貢献できる学生の受け皿を活性化する事で、地方の独自性をいかした勝ち残る仕組みを確立することができる。いわゆる、地域産業のウィークポイントと学校側の人材教育が相乗効果の関係を持てる事が大きな目的である。今年度の事業は、16年度の継続進化編として東京進出・発信を達成し、活動認知を広げた。また、プログラム取得学生は、目的の意義を深く理解し地場の就業に直結させ企業貢献の布石とした。(43%の直結就業率)今後も継続をしていくが、さらに高度教育を目指し独自性の高い地域活性を目指す。

②事業により得られた成果

今回のカリキュラムは、従来の学科特性格別授業形態から他学科混合のプロジェクト型授業で運営したため、個々のスキル習得だけではなく、社会人として最も必要とされるコミュニケーション力や、柔軟性などの能力開発向上が見られた。こういった人間力向上の成果は、専門分野の活用のみならず、システムとしても企業から高い評価を得、就業に直結する最短成果といえる。また、普段取引のない企業が、学校を介して連携交流が図れ、企業間での地場コミュニケーションが活性化した。

③今後の活用

今回のプログラムは、ファッション専攻科で最上級生(3年生)を対象としたが、カリキュラムのコンテンツを抜粋要約しレベル調整をした上で、1年生・2年生にも応用できる科目として編成可能なツールとする。また、今後導入の可能性が高いデュアルシステムなどで、目的やジャンル分けできる企業側でのプログラムガイドラインとして活用が期待できる。

④次年度以降における課題・展開

まず、カリキュラム全体を継続し、企業との連携と信頼関係をさらに深めていく事が最重要課題である。また、ブランド運営継続と就業に直結するプログラムの強化。展開としては、研究成果を全国の地域産業と関係する専修学校に配布しプログラムの認知を推進する。それと同時に、カリキュラムについては企業ニーズを定期的に吸い上げ精度の向上を目指す。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

調査のねらい:人材ニーズ調査

対象:地域企業5社(アパレル製造業:ニッター、縫製、テキスタイル等)

内容:人材問題。(どのようなスキル・知識が必要か、現状、自社の弱み、提案力の強化方法、アパレルの製品ニーズに対する対応能力等)

方法:企業訪問し、企画担当者、経営者等にヒヤリング調査を行った。

分析結果:各業態別に必要な人材に若干の誤差はあったが、今回のプログラムは、総体的に企業貢献が期待できるものであった。(詳細の分析については、別紙報告書にて提示)

②カリキュラムの開発

各企業にヒヤリング調査を行い、実施委員会にて検討。より実践的な内容を重視した点と、実際のビジネス背景により近い環境としてクラスを業務セクション毎に振り分け、業務スケジュールにあわせてカリキュラム開発を行った。その際、コンテンツに関してはヒヤリング調査の人材ニーズ結果を反映し、企業が求めるものを重視した内容とした。また、カリキュラムの運営後、成果状況を企業から評価を貰いカリキュラムの精度をあげた。

③実証講座

ブランド開発をするための、マーケティング・コンセプトワーク講座

企画スキル習得のための、デザインワーク、商品構成講座

製品製造のための、パターンテクニック、テキスタイル開発、生産管理、縫製技術講座

販売促進スキル習得のための、展示会企画、DM作成、ファッションショー演出ワークなどを7月25日より、3月8日まで実施。受講者数:17名。

場所:連携企業または、国際トータルファッション専門学校内

受講者は、実践的な講座に対し、興味深く真剣に取り組んでいた。

④その他

新潟県の代表的な地場産業としてのアパレル製造(テキスタイル、ニット、縫製)すべての業態と連携をとり、企画～製造～販売までの一貫したながれを体験する事ができるプログラムとして、首都圏では真似のできない地方独自性あるカリキュラム構築が図れた。